日本ウェルネス保育専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
保育専門課程	こども保育学科昼間部	2020年度	1年（前期）
講義区分	授業科目名	担当教員	単位時間数
必修科目（演習）	保育内容総論	山本忠篤	30時間（1単位）

【授業の到達目標】

1．保育所保育指針における「保育の目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「保育の内容」の関連を理解する。 2．保育所保育指針の各章のつながりを読み取り、保育の全体的な 構造を理解する。 3．子どもの発達や生活を取り巻く社会的背景及び保育の内容の歴 史的変遷等を踏まえ、保育の内容の基本的な考え方を、子ども の発達や実態に即した具体的な保育の過程（計画・実践・記録・ 省察・評価・改善）につなげて理解する。 4．保育の多様な展開について具体的に理解する。

【授業概要】

年間計画、学期計画、月案、週案、日案等が書けるようになるために、演習を含め授業を展開する。また、園での仕事を理解するためにグループでの話し合いを行いながら、様々な計画をまとめ上げる力を養う。

授業内容

1	オリエンテーション　保育計画の意義について
2	保育所保育指針に基づく保育の全体構造と保育内容の理解 について
3	保育の内容の歴史的変遷とその社会的背景について
4	子どもの発達や生活に即した保育の内容の基本的な考え方 について
5	保育の基本を踏まえた保育内容の展開について
6	養護及び教育が一体的に展開する保育について
7	子どもの主体性を尊重する保育について
8	環境を通して行う保育について
9	生活や遊びによる総合的な保育について
10	個と集団の発達を踏まえた保育について
11	家庭や地域、小学校等との連携を踏まえた保育について
12	長時間の保育について
13	特別な配慮を要する子どもの保育 、多文化共生の保育について
14	前期の復習と要点について
15	評価　（定期試験）

【成績評価方法】

成績評価：授業中の課題及び定期試験の結果で成績評価を行う。なお、出席が全体の3/2以下の場合は成績評価の対象外となる。試験６０％　授業態度、課題（提出物を含む）を４０％で評価する。

授業の特徴・形式と教員紹介

大学院では社会福祉等を専攻。自治体の福祉系職員として長年学童保育事業、児童館事業、知的障害者生活支援事業に関わった経験を生かし授業を行う。講義と演習で授業を構成する。提出物もあるので、なるべく欠席しないこと。

日本ウェルネス保育専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
保育専門課程	こども保育学科昼間部	2020年度	1年（前期）
講義区分	授業科目名	担当教員	単位時間数
必修科目（講義）	保育の心理学	木戸直美	30時間（2単位）

【授業の到達目標】

人の誕生から死までの心身の発達、及び学習過程や学習方法について、代表的な理論を習得する。基礎知識を習得後、映像や絵本を活用し、現代社会の子どもやおとなの心身に対する理解を深める。

【授業概要】

・乳幼児・児童・生徒の心身の発達、及び学習過程や学習方法について理解する。
・現代社会における子どもやおとなの心身に対して理解する。

授業内容

1	ガイダンス
2	保育の心理学の領域
3	子どもの誕生まで（胎児期）
4	子どもの誕生まで（乳児期）
5	愛着の成立と展開
6	身体的機能・運動機能の発達
7	言葉の発達
8	道徳性の発達
9	児童期から思春期の発達
10	青年期から成人期の発達
11	老年期の発達
12	現代社会における心とからだ①
13	現代社会における心とからだ②
14	総括
15	試験

【成績評価方法】

成績評価：授業中の課題・授業参画・試験の結果で総合的に成績評価を行う。なお、出席が全体の3/2以下の場合は成績評価の対象外となる。

授業の特徴・形式と教員紹介

講義形式の授業
教科書に沿った内容にを軸にグループディスカッションなどから更なる理解を引き出す。
講師は子育て支援事業の実践として、幼稚園、保育園等で母親学級、健康教室、地域の子ども保育相談等も行い、大学、専門学校における授業経験が豊富。

日本ウェルネス保育専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
保育専門課程	保育科：昼間部	2020年度	1年（前期）
講義区分	授業科目名	担当教員	単位時間数
必修科目	保育内容演習（健康）	山口智之	30時間（1単位）

【授業の到達目標】

・養護及び教育に関わる保育の内容が、それぞれに関連性を持つことを理解し、総合的に保育を展開していく
　ための知識・技術・判断力を習得する。
・子どもの発達を、保育所保育指針全般を捉えながら、特に領域健康の観点から学習する。

【授業概要】

保育における子どもの生活や遊びを総合的に捉え、保育を展開していくための方法や技術、子どもの実態や状況に即した援助や関わりについて、具体的に学ぶ。

授業内容

1	保育の基本と領域「健康」
2	乳幼児期の身体の発達と健康
3	乳幼児期の生活リズムと生活習慣
4	乳幼児期の食生活
5	乳幼児期の運動発達
6	乳幼児期の安全
7	前半のまとめ
8	領域「健康」と保育方法
9	生活リズム・生活習慣にかかわる指導
10	食育にかかわる指導
11	運動遊びにかかわる指導
12	安全への配慮と子どもへの安全教育
13	領域「健康」にかかわる現代的課題と動向
14	後半のまとめ・試験対策
15	試験

【成績評価方法】

成績評価：授業中の課題・授業参画・試験の結果で総合的に成績評価を行う。なお、出席が全体の3/2以下の場合は成績評価の対象外となる。

授業の特徴・形式と教員紹介

演習形式の授業。
その日の講義内容だけでなく第一回目の講義からの繋がりを重視した講義スタイル。
講師は大学、専門学校における授業の実績、幼児体育指導、幼児の指導者を対象とした講習会の経験が豊富。

日本ウェルネス保育専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
保育専門課程	こども保育学科昼間部	2020年度	1年（前期）
講義区分	授業科目名	担当教員	単位時間数
必修科目（演習）	保育内容演習（言葉）	木戸直美	30時間（1単位）

【授業の到達目標】

乳幼児の言葉の獲得過程、及び保育所保育指針の領域「言葉」についての考え方を理解し、豊かな言葉を育むための保育の基礎知識を身に付ける。

【授業概要】

・保育所保育指針の領域「言葉」のねらい、及び内容を理解する。
・乳幼児の発達の学びの過程を理解し、保育者の役割や援助の仕方を身に付ける。

授業内容

1	ガイダンス
2	言葉とは何か
3	保育内容領域「言葉」とは
4	乳幼児の言葉の教育
5	乳幼児期における言葉の発達①０－２才
6	乳幼児期における言葉の発達②３－６才
7	生活体験と言葉
8	遊びと言葉
9	感動体験と言葉
10	文字との出会い
11	子どもの育ちを支える保護者の言葉
12	言葉のかかわりに配慮を要する子ども
13	諸外国における乳幼児期における言葉の教育
14	総括
15	試験

【成績評価方法】

成績評価：授業中の課題・授業参画・試験の結果で総合的に成績評価を行う。なお、出席が全体の3/2以下の場合は成績評価の対象外となる。

授業の特徴・形式と教員紹介

映像・絵本等を活用し、アクティブラーリングを中心とした授業。
講師は子育て支援事業の実践として、幼稚園、保育園等で母親学級、健康教室、地域の子ども保育相談等も
行い、大学、専門学校における授業経験が豊富。

日本ウェルネス保育専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
保育専門課程	こども保育学科昼間部	2020年度	1年通年
講義区分	授業科目名	担当教員	単位時間数
必修科目（演習）	保育実習指導Ⅰ	増澤將江	30時間（2単位）

【授業の到達目標】

実習に向けて、どんなことを保育園が求めているか、実習に行く時の心構えと準備。また実習に行った際に困らないようにノートの書き方や玩具の準備等を指導していく。

【授業概要】

わからないまま実習に行くのではなく、保育園の受け入れやどうなってほしいのか理解した上で、実習を楽しめるようにしていく。また玩具や遊びの計画など使い方も交えて伝えていく。

授業内容

1	オリエンテーション
2	保育実習の目的と概要
3	福祉職としての保育士
4	保育実習の心構えと準備
5	保育実習の記録
6	実習課題
7	保育所実習1 保育所の役割と機能
8	保育所実習2 保育所における子ども理解
9	保育所実習3 保育所保育士の職務理解
10	保育所実習4 保育所における計画と実践
11	保育所実習5 保育環境と安全
12	施設実習1 施設養護の目的や意義
13	施設実習2 施設で暮らす子どもや利用者の理解
14	施設実習3 施設保育士の役割
15	施設実習4 施設における養護内容
16	施設実習5 施設内の生活環境、衛生、安全管理
17	施設実習6 児童福祉施設における実習の留意点
18	施設実習7 障害児者施設等における実習の留意点
19	実習後の学び―総括、評価
20	自己課題の明確化
21	学びを深めるために
22	日誌の書き方①
23	日誌の書き方②
24	日誌の書き方③
25	部分実習の指導計画と模擬保育①
26	部分実習の指導計画と模擬保育②
27	責任実習の指導計画と模擬保育①
28	責任実習の指導計画と模擬保育②
29	事後指導
30	事後指導

【成績評価方法】

成績評価：授業中の態度課題及び定期試験の結果で成績評価を行う。なお、出席が全体の3/2以下の場合は成績評価の対象外となる

授業の特徴・形式と教員紹介

講義形式の授業。
その日の講義内容だけでなく第一回目の講義からの繋がりを重視した講義スタイル。
講師は病院での保育園の立ち上げ、実習生受入の研修業務を行っていた。

日本ウェルネス保育専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
保育専門課程	こども保育学科昼間部	2020年度	1年（通年）
講義区分	授業科目名	担当教員	単位時間数
必修科目（講義）	障害児保育	相澤　隆二	60時間（4単位）

【授業の到達目標】

1、障害特性に応じた障害児との関わりを理解する。2、障害児保育における保育方法と計画を理解する。3、障害児保育に関連する諸制度を理解し、身に付ける。4、障害児その他特別な配慮を要する子どもの家庭への支援や関係機関との連携・協働について理解する。

【授業概要】

障害児保育の理念や歴史的変遷について学び、障害児及びその保育について、個々の障害の特性や心身の発達等に応じた援助や支援、配慮について理解をする。併せて家庭への支援や関係機関との連携等について理解する。また、障害児その他配慮を要する子供の保育に関する現状と課題について理解する。

授業内容（前期）

1	障がいの概念
2	障害児保育の歴史
3	地域社会への参加
4	合理的配慮の理解
5	身体障害（肢体不自由）児・者の理解
6	身体障碍（肢体不自由）児・者の援助
7	車いす体験
8	知的障害児・者の特徴、行動特性
9	知的障害児・者の援助
10	身体障害（視覚・聴覚・言語）児・者の理解、援助
11	発達障害児の障害特性
12	発達障害の特性に応じた援助
13	重症心身障害児、医療的ケア児の援助
14	重症心身障害児、医療的ケア児の理解
15	定期試験
16	指導計画の理解
17	個別支援計画の理解
18	障害児保育の形態
19	環境としての保育者の役割
20	障害児の健康と安全①
21	障害児の健康と安全②
22	職員間の連携・協働
23	関係機関との連携・協働
24	保護者、地域との連携
25	保護者、家庭の理解、支援
26	専門機関の理解
27	専門機関との連携
28	障害に対する理念の変化
29	障害児を取り巻く制度
30	定期試験

【成績評価方法】

成績評価：授業中の課題及び定期試験の結果で成績評価を行う。なお、出席が全体の3/2以下の場合は成績評価の対象外となる

授業の特徴・形式と教員紹介

毎回の授業は講義形式。
講師は、保育園、学童保育、放課後等デイサービスおよび高齢者施設、障害者施設を運営する社会福理事長。障害児・者のサービス管理責任者や介護支援専門員等、現場実践に基づいた講義が特徴。

日本ウェルネス保育専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
医事管理専門課程	医療事務学科	2020年度	1年（通年）
講義区分	授業科目名	担当教員	単位時間数
専門科目	英語表現	温井　一裕	90時間（6単位）

【授業の到達目標】

幼児との会話に幼児との会話において、最低限のコミュニケーションをとることが可能。

【授業概要】

幼児との会話において、最低限のコミュニケーションをとれるようリスニング及びスピーキングを中心に教務を進める。

授業内容

1	簡単なリスニング及び文法（その１）
2	簡単なリスニング及び文法（その２）
3	簡単なリスニング及び文法（その３）
4	簡単なリスニング及び文法（その４）
5	簡単なリスニング及び文法（その５）
6	リスニング及びスピーキング基礎（その１）
7	リスニング及びスピーキング基礎（その２）
8	リスニング及びスピーキング基礎（その３）
9	リスニング及びスピーキング基礎（その４）
10	リスニング及びスピーキング基礎（その５）
11	リスニング及び簡単な英会話（その１）
12	リスニング及び簡単な英会話（その２）
13	リスニング及び簡単な英会話（その３）
14	リスニング及び簡単な英会話（その４）
15	試験（リスニング及び文法）
16	リスニング及び実践を想定した簡単な英会話（その１）
17	リスニング及び実践を想定した簡単な英会話（その２）
18	リスニング及び実践を想定した簡単な英会話（その３）
19	リスニング及び実践を想定した簡単な英会話（その４）
20	リスニング及び実践を想定した簡単な英会話（その５）
21	リスニング及び実践を想定した簡単な英会話（その６）
22	リスニング及び実践を想定した簡単な英会話（その７）
23	リスニング及び実践を想定した英会話（その１）
24	リスニング及び実践を想定した英会話（その２）
25	リスニング及び実践を想定した英会話（その３）
26	リスニング及び実践を想定した英会話（その４）
27	リスニング及び実践を想定した英会話（その５）
28	リスニング及び実践を想定した英会話（その６）
29	試験（リスニング及びスピーキング）
30	試験（文法）

【成績評価方法】

成績評価：遅刻の有無、授業中の態度及び定期試験の結果で成績評価を行う。
評価基準の重みづけは次のとおり。
出席点：２点（遅刻は１点）
授業点：２点（授業中の居眠り、スマホ操作等を発見した場合は１点）
定期試験：試験点×0.4　　なお、出席が全体の3/2以下の場合は成績評価の対象外とする。

授業の特徴・形式と教員紹介

毎回の授業の前半はヒヤニングセクションとし、ヒヤリングを中心とした講義形式。後半は文法を中心とした講義形式。現場で役立つ英会話を中心に実戦形式の授業が特徴。

日本ウェルネス保育専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
保育専門課程	保育科：昼間部	2020年度	1年（前期）
講義区分	授業科目名	担当教員	単位時間数
必修科目（講義）	体育講義	山口智之	15時間（1単位）

【授業の到達目標】

健康、運動、エネルギー代謝

【授業概要】

健康、運動、エネルギー代謝

授業内容

1	体力の構成要素　プリント①　２．４）まで
2	体力の構成要素　プリント①　最後まで
3	呼吸・血液循環・エネルギー獲得機構
4	クレアチンリン酸　乳酸
5	炭水化物の燃焼　死亡の燃焼
6	局所筋運動
7	試験対策
8	テスト
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

【成績評価方法】

成績評価：授業中の態度課題及び定期試験の結果で成績評価を行う。なお、出席が全体の3/2以下の場合は成績評価の対象外となる

授業の特徴・形式と教員紹介

講義形式の授業。
その日の講義内容だけでなく第一回目の講義からの繋がりを重視した講義スタイル。
講師は大学、専門学校における授業の実績、幼児体育指導、幼児の指導者を対象とした講習会の経験が豊富。

日本ウェルネス保育専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
こども保育専門課程	こども保育学科昼間部	2020年度	1年（前期）
講義区分	授業科目名	担当教員	単位時間数
必修科目（演習）	ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝⅠ	土屋　雅彦	30時間（1単位）

【授業の到達目標】

正しい職業観とともに、早期の就職内定獲得と社会人として必要なマナーの習得を目標とする。また、可能な限り、授業を通して「働く」意味など、社会人として必要な基本的な職業遂行能力と社会の仕組み・ルールも習得させたい。

【授業概要】

社会人（ビジネスマン）として必要とされる基本マナー、コミュニケーション手法ならびに組織・業務の基本等ビジネス能力の習得とともに、ﾋﾞｼﾞﾈｽ能力検定3級の合格レベルへの実力養成を授業の目標とする。

授業内容

1	授業オリエンテーション （期待される社会人として働くために。B検定受検対策ポイントと授業運営）
2	キャリアと仕事へのアプローチ（キャリアと働くことの基本）
3	ビジネス常識（コミュニケーションとビジネスマナーの基本）
4	ビジネス常識②（話し方・聞き方と報連相の基本）
5	コミュニケーション手法（仕事への取組み方の基本）
6	コミュニケーション手法②（ビジネス文書作成と電話応対の基本）
7	コミュニケーション手法③（ビジネス文書作成と電話応対の基本）
8	会社関係での付き合い（付き合い方の基本）
9	ビジネス文書の基本（文書の作成と種類など）
10	ビジネス常識の実践（コミュニケーションとビジネスマナーの実践）
11	ビジネス常識の実践②（来客応対と訪問マナー）
12	組織と業務（仕事の実践とビジネスツール）
13	時事・社会（日本経済の基本構造と変化など）
14	仕事の実践とビジネスツール（PDCAとスケジュール管理）と前期試験について
15	前期/定期試験

【成績評価方法】

成績評価：授業中の課題提出及び定期試験の結果で成績評価を行う。なお、出席が全体の3/2以下の場合は成績評価の対象外となる

授業の特徴・形式と教員紹介

毎回の授業は、講義と問題演習形式を基本。なお、授業中では、ロールプレイも織り交ぜた体験的かつ実践的な授業ともしたい。
講師は就職指導歴20年以上の経験を持つ。そのビジネスマンの体験に基づく社会人力の養成を授業の特色とする。

日本ウェルネス保育専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
保育専門課程	こども保育学科昼間部	2020年度	1年（前期）
講義区分	授業科目名	担当教員	単位時間数
必修科目（演習）	音楽Ⅱ	村山祐季子	30時間（1単位）

【授業の到達目標】

こどもの歌のピアノ伴奏を、暗譜で弾き歌いできるようになる。

ハ長調の主要三和音による伴奏を完全に習得する。

【授業概要】

課題曲を集団でレッスンした後、各々のキーボード・ピアノ室での個人練習、個人レッスンを行う。

各自のレベルに合わせて弾ける曲のレパートリーを広げていく。

授業4回に1回、プチテストを実施する。

授業内容

1	オリエンテーション、片手奏、両手奏、大譜表の練習曲
2	童謡曲、和音の練習、スリーコード伴奏、アンサンブル
3	課題曲合同レッスン、個人レッスン
4	個人レッスン、プチテスト
5	課題曲合同レッスン、個人レッスン
6	個人レッスン、アンサンブル
7	課題曲合同レッスン、個人レッスン
8	個人レッスン、プチテスト
9	課題曲合同レッスン、個人レッスン、弾きうたい
10	個人レッスン、弾きうたい
11	個人レッスン、試験曲決定
12	弾きうたいプチテスト、個人レッスン
13	個人レッスン
14	個人レッスン、発表（試験リハーサル）
15	試験

【成績評価方法】

成績評価：授業中の課題及び定期試験の結果で成績評価を行う。なお、出席が全体の3/2以下の場合は成績評価の対象外となる

授業の特徴・形式と教員紹介

週に1度の授業時間に受け身の姿勢で出席するだけでは、ピアノを弾けるようにはなりません。できれば毎日、自宅や学校のピアノを使って10分でも自主的に課題曲の練習を重ねてください。進度別個人レッスンですので、練習さえすれば上達します。教員はピアノ演奏とピアノ教育の専門家です。

日本ウェルネス保育専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
保育専門課程	こども保育学科昼間部	2020年度	1年（前期）
講義区分	授業科目名	担当教員	単位時間数
必修科目（演習）	図画工作Ⅰ	高畠　潤子	30時間（1単位）

【授業の到達目標】

保育所保育指針に示される保育内容を理解しながら、絵の具やクレヨンによる描写、立体的素材による造形活動の楽しさや喜びを体験し、作るために必要な知識と技能を習得。
同時に発達段階に応じた題材選び指導法の基礎を学ぶ。

【授業概要】

保育所保育指針に示される保育内容の理解
絵の具やクレヨンによる描写、立体的素材による造形活動の楽しさや喜びを体験。
発達段階に応じた題材選び指導法の基礎を学ぶ。

授業内容

1	自分を解き放つ！おもしろ絵画法
2	油粘土、小麦粉粘土、紙粘土の違いを知る
3	アマビエ花瓶を作ろう
4	非常用皿、マスク、スリッパ作り
5	色水あそび、マーブリング
6	バチック、型抜き、スクラッチ
7	野菜スタンプ、粘土スタンプ、吹き絵、切り絵
8	コラージュでつくるメッセージカード
9	季節の壁面作り1
10	季節の壁面作り2
11	季節の壁面作り3
12	テスト用作品作り1
13	テスト用作品作り2
14	テスト用作品作り3
15	試験

【成績評価方法】

成績評価：授業中の態度課題及び定期試験の結果で成績評価を行う。なお、出席が全体の3/2以下の場合は成績評価の対象外となる。
作品提出+プレゼンテーション+出席点

授業の特徴・形式と教員紹介

ほとんどの授業で制作を行う。保育者自身が創作の楽しさを理解して、こどもと向き合える幼児美術、工作の方法をディスカッションしながら模索する授業形式。
講師は現役の絵本作家。

日本ウェルネス保育専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
保育専門課程	こども保育学科昼間部	2020年度	1年（前期）
講義区分	授業科目名	担当教員	単位時間数
選択必修科目（演習）	リズム表現	明妻　若奈	30時間（1単位）

【授業の到達目標】

１．保育の内容を理解し、こどもの音楽表現遊び、身体表現遊びを展開するために必要な知識や技術を習得する。
２．表現する力を育てるための手法を実践を通して習得する。

【授業概要】

保育内容を理解し、こどもの音楽表現遊び、身体表現遊びを展開するため必要な知識や技術を自己表出、自己発見、自己表現という一つの表現手法の流れに従い、音楽表現的領域、身体表現敵領域、言語表現的領域から見出し、保育指導法を習得していくことを目的とする。また、こどもの音楽表現、身体表現の指導援助者として、保育の中で取り扱う機材に必要な知識をも合わせて習得する。

授業内容

1	ガイダンス
2	音符の種類・拍子
3	リズムプリント・4拍子(ピアノ実践)
4	付点音符・3拍子(ピアノ実践)
5	コードとリズム①(ピアノ実践)
6	コードとリズム②(ピアノ実践)
7	コードとリズム③(ピアノ実践)
8	6/8拍子(ピアノ実践)
9	ピアノレッスン
10	リトミック①
11	リトミック②
12	リトミック③
13	カップス
14	実技試験(ピアノ)
15	筆記試験

【成績評価方法】

成績評価：授業中の課題及び定期試験の結果で成績評価を行う。なお、出席が全体の3/2以下の場合は成績評価の対象外となる

授業の特徴・形式と教員紹介

リズムに特化した実技形式で授業を進める。基本的な楽譜の読み方など、音楽の1からスタートする。
リズム表現担当：明妻若奈（あけづまわかな）　クラリネットが専門。プロのオーケストラ・吹奏楽で活動をしている。

日本ウェルネス保育専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
保育専門課程	こども保育学科昼間部	2020年度	1年前期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位時間数
必修科目（講義）	日本国憲法	小中さつき	30時間（2単位）

【授業の到達目標】

こども達は、乳児期から幼児期へ成長、発達する過程において、自己と異なる身の回りの事象との関わりを認識しはじめることを理解するとともに、周囲の様々な環境や人間関係から好奇心や探求心を養う中で生きる力の基礎を培ってゆくことを学ぶ。

【授業概要】

こども達は、乳児期から幼児期へ成長、発達する過程において、自己と異なる身の回りの事象との関わりを認識しはじめることを理解するとともに、周囲の様々な環境や人間関係から好奇心や探求心を養う中で生きる力の基礎を培ってゆくことを学ぶ。

授業内容

1	オリエンテーション
2	憲法の概念
3	憲法の基本原理
4	人権の概念
5	人権保障の範囲
6	人権の享有主体
7	人権の到達範囲
8	人権の制約原理
9	身体の所在
10	経済生活
11	精神生活
12	共同生活
13	憲法第9条
14	試験対策
15	試験

【成績評価方法】

成績評価：授業中の態度課題及び定期試験の結果で成績評価を行う。なお、出席が全体の3/2以下の場合は成績評価の対象外となる

授業の特徴・形式と教員紹介

講義形式の授業。テキストに添って学びに基づき、実際の保育の実例紹介などに基づいたワークを行うことにより理解を深める。講師は専門分野における研究業績のほか、幼稚園の理事を行いながら、保護者向けに教育活動を行っている。

日本ウェルネス保育専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
保育専門課程	こども保育学科昼間部	2020年度	1年（通年）
講義区分	授業科目名	担当教員	単位時間数
必修科目（演習）	音楽Ⅰ	竹山千尋	60時間（4単位）

【授業の到達目標】

歌唱・楽器演奏につながる基礎的な読譜能力を身につける。
主要三和音について理論的に理解し、コードネームでの簡易伴奏ができるようにする。
こどもの歌について学び、子どもたちの豊かな音楽表現につなげる基礎力を身につける。

【授業概要】

保育内容に沿った音楽表現に活用するために、音楽の基本的な文法を学び、楽譜の読み方、コードネームなど基礎的な知識・技術を学ぶ。さまざまな子どもの歌を覚える。

授業内容

1	オリエンテーション、楽譜の基礎知識１
2	楽譜の基礎知識２、音符と休符１、読譜・記譜練習
3	音符と休符２、読譜・記譜練習
4	４・５月の歌、読譜・記譜練習
5	音符と休符まとめ
6	拍子とリズム１、6月の歌
7	大譜表の記譜練習、拍子とリズム２
8	音程１、7月の歌
9	音程２
10	音程３
11	移調導入、8月の歌
12	楽語、9月の歌
13	前期総まとめ
14	前期総まとめ
15	前期試験
16	読譜・記譜練習、音階と調１（ハ長調）
17	音階と調２（調号３つまで）
18	移調、10月の歌
19	和音とコードネーム１
20	和音とコードネーム２
21	和音とコードネーム３
22	11月の歌、コード伴奏付け
23	楽語、リズム創作
24	12月の歌、合奏
25	簡易伴奏編曲、記譜
26	1月の歌、わらべうた
27	2月の歌、総まとめ
28	3月の歌、総まとめ
29	総まとめ
30	後期試験

【成績評価方法】

成績評価：授業中の課題及び定期試験の結果で成績評価を行う。なお、出席が全体の2/3以下の場合は成績評価の対象外となる

授業の特徴・形式と教員紹介

音楽の文法を学ぶので座学が中心ですが、鍵盤があって音が鳴るほうが理解が早いため、ピアノ室で各自キーボードを使っての授業になります。楽譜を書く作業が多く五線譜プリントを配布します。後期以降のピアノ実習の土台になる授業です。教員はピアノの専門家であり、音楽活動、音楽指導の経験を生かし、現在、自宅でピアノ教室も行っている。

日本ウェルネス保育専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
保育専門課程	こども保育学科昼間部	2020年度	1年（前期）
講義区分	授業科目名	担当教員	単位時間数
必修科目（講義）	乳児保育Ⅰ	高橋　良子	30時間（2単位）

【授業の到達目標】

個々の発達に応じた保育者のかかわり・内容・環境を理解する
乳児保育の指導計画の基本的理解や作成の仕方を身につける
乳児保育の保育者、保護者との連携について理解する

【授業概要】

乳児保育は、人格の基礎が形成される時期である。そのため、個々の発達に合わせた一人ひとりの健やかな育ちを保障するために、保育者として必要な受容的で応答的なかかわりや、具体的な援助の仕方を学んでいく。乳児保育の現状と課題を理解し、3歳児未満児の発達を踏まえた保育内容と保育者の役割について学ぶ。映像や事例、玩具に触れながら発表・グループ討議などを通して乳児保育について考えていく。保育者として意欲的に授業に臨む姿勢や態度を評価していく。

授業内容

1	オリエンテーション
2	乳児保育の役割と機能について
3	乳児保育が行われる場
4	3歳未満児の発育・発達を踏まえた援助や関わり
5	0歳児の発達と保育・発育発達の特徴、生活
6	0歳児の発達と保育・遊びの環境と保育者
7	１歳児の発達と保育・発育の特徴、生活
8	１歳児の発達と保育・遊びと環境と保育者
9	2、3歳児の発達と保育・発育の特徴、生活
10	2、3歳児の発達と保育・発育の特徴　遊びと環境
11	健康・安全管理①
12	健康・安全管理②
13	乳児保育と連携①
14	乳児保育の今後・子どもの健康課題・アレルギー児、睡眠中の事故への対応
15	定期試験

【成績評価方法】

成績評価：授業中の課題及び定期試験の結果で成績評価を行う。なお、出席が全体の3/2以下の場合は成績評価の対象外となる

授業の特徴・形式と教員紹介

授業の特徴・形式　講義を中心に対面式授業とグループワークをしながら授業内容を深めていく。
教員紹介　看護師の臨床経験と保育現場での経験を踏まえて乳児の発育支援を科学的根拠に基づいて保育のプロの支援となるように努めていく

日本ウェルネス保育専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
保育専門課程	こども保育学科昼間部	2020年度	1年（前期）
講義区分	授業科目名	担当教員	単位時間数
必修科目（演習）	幼児体育Ⅰ	池田一穂	30時間（1単位）

【授業の到達目標】

幼児体育を学び　安全かつ子供たち自身が活動に意欲的に取り組ませられる指導者になる

【授業概要】

子どもの発育、個人差個性差にあった指導法、運動遊び、体育的活動

授業内容

1	オリエンテーションと幼児体育と発達の様相（ＷＥＢ）
2	発達の様相と動機付け（ＷＥＢ）
3	学習効果と発達の様相（ＷＥＢ）
4	ＷＥＢでのおさらいと教育の6原則
5	実技　前転指導方法＋運動遊び作成
6	実技　前転補助方法＋運動遊び
7	実技　ブリッチ指導と後転指導法＋運動遊び指導法
8	実技　後転補助と跳び箱指導方法＋運動遊び披露
9	実技　簡単な体操につながる動き
10	実技　物を使う遊び（縄やボール）サッカー指導法
11	リズム体操
12	リズム体操作成
13	リズム体操制作、披露
14	座学の見直し
15	テスト

【成績評価方法】

成績評価：授業中の課題及び定期試験の結果で成績評価を行う。なお、出席が全体の3/2以下の場合は成績評価の対象外となる

授業の特徴・形式と教員紹介

現場での求められる幼児体育をまとめ前半では理論を学びそれを実技に使えるようにする。実際に園のなかで、体育活動の指導が出来る人材になれるようにする
講師は、指導者育成と幼児指導２つの現場経験を有している。明日からつかえる授業内容が特徴。

日本ウェルネス保育専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
保育専門課程	こども保育学科昼間部	2020年度	1年（前期）
講義区分	授業科目名	担当教員	単位時間数
必修科目（演習）	情報機器の操作Ⅰ	楳村麻里子	30時間（1単位）

【授業の到達目標】

保育の現場で必要な情報収集の方法を理解し、適切な情報発信を行い、積極的に利用できるようにする。
1年次に習得した情報機器（PC）のスキルを向上させる。
Word、Excel、PowerPointの基礎的な操作方法を習得し、保育の現場で必要な通信文、ポスター作成など実務的な文書を作成する。

【授業概要】

○Windowsの基礎　○Wordの基本操作　○Excelの基本操作　○PowerPointの基本操作　○Officeソフトの連携

授業内容

1	オリエンテーション/PC教室の環境と教室の利用方法
2	1年次の確認と進行方法　Wordの文書作成
3	タイピング、Word：文書の編集、拡張書式
4	タイピング、Word：表の作成
5	タイピング、Word：グラフィックの活用（ポスター）
6	タイピング、Word：実践文書の作成（通信文）
7	タイピング、Excel：四則演算、関数
8	タイピング、Excel：関数、表作成の編集
9	タイピング、Excel：グラフ
10	タイピング、Excel：データベース（名簿の管理）
11	タイピング、PowerPoint：スライドの作成
12	タイピング、PowerPoint：スライドの作成（学校案内）
13	タイピング、PowerPoint：アニメーション、スライドの切り替え
14	タイピング、Officeの連携
15	テスト

【成績評価方法】

成績評価：授業中の課題及び定期試験の結果で成績評価を行う。なお、出席が全体の3/2以下の場合は成績評価の対象外となる

授業の特徴・形式と教員紹介

演習形式、講師はIT 企業に勤務した経験があり、学校の保育学科で長年教えた経験を持つ。
保育の現場で作成しなければならない通信文、イベントで必要な文書を数多く作成する。

日本ウェルネス保育専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
保育専門課程	こども保育学科昼間部	2020年度	1年（前期）
講義区分	授業科目名	担当教員	単位時間数
必修科目（講義）	教育原理	平野節子	30時間（２単位）

【授業の到達目標】

○保育を取り巻く社会情勢の変化を踏まえ、教育とは何か、子どもの人権を守る保育とは何かを考えることができる。　○コンプライアンス意識を持った実践力のある保育士になるための基礎力（内容・方法）を身に付ける。

【授業概要】

教育の基本的概念について学び、教育史、教育思想の変遷について知ることを通して、現代社会における保育の課題、社会的養護、児童や保護者への支援の在り方について考えさせる。又、教育実践に関わるための教育の制度と基礎力を身に付けるために、復習を充実させ、作業やディスカッションを用いた対話型学習に取り組む。

授業内容

1	ガイダンス・保育士とは
2	教育の意義・目的、子どもの人権
3	西洋の教育思想
4	諸外国の教育史
5	日本の教育思想
6	日本の教育史
7	教育の制度（１）憲法、教育基本法、学校教育法
8	教育の制度（２）幼稚園教育要領、児童福祉法
9	教授・学習理論
10	カリキュラムの類型と評価
11	生涯学習社会における教育
12	教育の現状と課題―いじめ、体罰、虐待
13	特別支援教育と発達障害
14	教育改革と教育振興基本計画
15	定期試験

【成績評価方法】

成績評価：授業中の課題（30%）及び定期試験の結果（60%）授業参加態度（10%）で成績評価を行う。　なお、出席が全体の3/2以下の場合は成績評価の対象外となる。

授業の特徴・形式と教員紹介

変化する子どもを取り巻く環境に対応した専門職としての保育士の在り方を考えさせるために、グループワークやアクティブ・ラーニングを取り入れた授業を行う。小学校、特別支援学校、子育て支援に関わってきた経験を生かして、実践力のある保育士を育成したい。

日本ウェルネス保育専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
保育専門課程	こども保育学科昼間部	2020年度	1年（前期）
講義区分	授業科目名	担当教員	単位時間数
必修科目（講義）	子ども家庭福祉	平野節子	30時間（２単位）

【授業の到達目標】

○子ども家庭福祉の理念、制度、サービスについて学び、子どもの権利擁護の視点に立った価値観・倫理観を育成する。　○子どもに関する社会的課題について知り、保育実践に活かせる子ども家庭福祉に必要な知識・技能を理解する。

【授業概要】

子ども家庭福祉の歴史的変遷を学び、現代の制度と法体系構造と構築経緯について考える。又、子どもに関する様々な実態や社会的課題を取り上げ、グループワークやディスカッションを通して、保育の専門職としての支援・援助の方策を考える。

授業内容

1	ガイダンス・子ども家庭福祉の理念と概念
2	子ども家庭福祉の歴史的変遷
3	子どもの権利擁護と子ども家庭福祉
4	子ども家庭福祉の制度と法体系
5	子ども家庭福祉の実施機関と実施者・専門職
6	少子化と子育て支援サービス
7	母子保健と児童の健全育成
8	多様なニーズへの対応
9	児童虐待防止、ドメスティックバイオレンス
10	障害のある児童への対応
11	少年非行等の対応
12	次世代育成支援と子ども家庭福祉の推進
13	地域における連携・協働とネットワーク
14	諸外国の動向と保育士による家庭支援の意義
15	定期試験

【成績評価方法】

成績評価：授業中の課題（30%）及び定期試験の結果（60%）授業参加態度（10%）で成績評価を行う。　なお、出席が全体の3/2以下の場合は成績評価の対象外となる。

授業の特徴・形式と教員紹介

保育士として必要な知識の習得に加え、社会について問題意識を持ち、問題解決のための方策を考える思考力の育成のために、アクティブ・ラーニング方式の対話型・双方向型授業を行う。30年以上の小学校教育、特別支援教育、子育て支援活動の経験から、思考力・実践力のある保育士を育成したい。

日本ウェルネス保育専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
保育専門課程	こども保育科昼間部	2020年度	1年（後期）
講義区分	授業科目名	担当教員	単位時間数
必修科目（講義）	子ども家庭支援の心理学	山本忠篤	30時間（2単位）

【授業の到達目標】

１．生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の 重要性、発達課題等について理解する。 ２．家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族 関係等について発達的な観点から理解し、子どもとその家庭を 包括的に捉える視点を習得する。 ３．子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解する。 ４．子どもの精神保健とその課題について理解する。

【授業概要】

家庭支援に関わる人間、社会について深く掘り下げます。子ども家庭支援論や保育心理学などの科目とも関連しあいながら学びます。授業の中では演習も含め、取り組みます。現在の状況などあらかじめ調べることも必要になりますので、予習をしておいてください。

授業内容

1	オリエンテーション
2	乳幼児期から学童期前期にかけての発達について
3	学童期後期から青年期にかけての発達について
4	成人期・老年期における発達について
5	家族・家庭の意義と機能 について
6	親子関係・家族関係の理解について
7	子育ての経験と親としての育ちについて
8	子育てを取り巻く社会的状況について
9	ライフコースと仕事・子育てについて
10	多様な家庭とその理解について
11	特別な配慮を要する家庭について
12	子どもの生活・生育環境とその影響について
13	子どもの心の健康に関わる問題について
14	後期のまとめと復習
15	評価（定期試験）

【成績評価方法】

成績評価：授業中の課題及び定期試験の結果で成績評価を行う。なお、出席が全体の3/2以下の場合は成績評価の対象外となる。試験６０％　授業態度、課題を４０％で評価する。

授業の特徴・形式と教員紹介

大学院では心理学と社会福祉を専攻。自治体の福祉系職員として長年学童保育事業、児童館事業、知的障害者生活支援事業に関わった経験を生かし授業を行う。授業の形態は講義が中心だが、プリントを用いた演習も行う。

日本ウェルネス保育専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
保育専門課程	こども保育科昼間部	2020年度	1年（後期）
講義区分	授業科目名	担当教員	単位時間数
必修科目（演習）	保育内容演習（表現）	山本忠篤	30時間（1単位）

【授業の到達目標】

総合的に保育を展開していくための知識・技術・ 判断力を習得する。子どもに対する理解を深めながら、保育の内容について具体的に理解する。子ども が生活や遊びにおいて体験していることを捉えるとともに、保 育に当たって保育士が留意、配慮すべき事項を理解する。子どもの発達過程に即して具体的な保育場面を想定しながら、 環境の構成など保育の過程の実際について理解する。

【授業概要】

感じたことや考えたことを自分なりに表現すること を通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにす るための方法を身につけるため、演習を積極的に取り入れる。他の科目との連携で理解力を付ける。

授業内容

1	オリエンテーション
2	表現のねらい内容、内容の取扱いについて
3	乳幼児の表現について
4	乳幼児の表現の実際を調べる
5	保育教材の活用（自然）
6	保育教材の活用（音）
7	身近な遊具、生活用具の制作
8	身体を動かした表現の体験
9	音楽表現について
10	造形表現について
11	身体表現について
12	表現の模擬保育について
13	表現の模擬保育の実際について
14	後期のまとめと復習
15	評価（定期試験）

【成績評価方法】

成績評価：授業中の課題及び定期試験の結果で成績評価を行う。なお、出席が全体の3/2以下の場合は成績評価の対象外となる

授業の特徴・形式と教員紹介

大学院では社会福祉専攻。自治体の福祉系職員として長年学童保育事業、児童館事業、知的障害者生活支援事業に関わった経験を生かし授業を行う。授業では講義と演習を混ぜて行い、実力を身に着ける。

日本ウェルネス保育専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
保育専門課程	こども保育学科昼間部	2020年度	1年（後期）
講義区分	授業科目名	担当教員	単位時間数
必修科目（演習）	就職研究Ⅰ	土屋　雅彦	30時間（1単位）

【授業の到達目標】

日本語検定試験（4級または準3級・3級）の合格と就職活動で必要な文章表現力（履歴書等の作成力）の養成。

【授業概要】

就職試験対策の初級講座と位置づけ、就職活動に必要な日本語力（文書作成と表現力）の養成と向上、ならびに「日本語検定試験」
4級以上の合格を授業目標する。

授業内容

1	授業オリエンテーション（日本語検定試験の対策ポイントと授業運営）
2	日本語検定対策①（言葉と言葉の関係）
3	日本語検定対策②（類義語・対義語・多義語）
4	日本語検定対策③（敬語・尊敬語・謙譲語・丁寧語）
5	日本語検定対策④（状況に合わせた敬語と敬語表現）
6	日本語検定対策⑤（電話や手紙での敬語）
7	日本語検定対策⑥（文法・用言の活用）
8	日本語検定対策⑦（可能動詞・受身と使役）
9	日本語検定対策⑧（接続語・助動詞・助詞）
10	日本語検定対策⑨（文のねじれ）
11	日本語検定対策⑩（言葉の使い方）
12	日本語検定対策⑪（送り仮名・仮名遣いの誤り）
13	文書の表現力の自己点検（履歴書の作成①）
14	文書の表現力の自己点検（履歴書の作成②）
15	後期/定期試験

【成績評価方法】

成績評価：授業中の課題提出及び定期試験の結果で成績評価を行う。なお、出席が全体の3/2以下の場合は成績評価の対象外となる

授業の特徴・形式と教員紹介

毎回の授業は、講義と小テスト形式を基本。なお、授業後半では、過去出題問題を演習形式で取入れる実践的な授業ともしたい。
講師は就職指導歴20年以上の経験を持つ。多くの学生が苦手とする「日本語表現力」養成を授業の特色とする。

日本ウェルネス保育専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
保育専門課程	こども保育学科昼間部	2020年度	1年（後期）
講義区分	授業科目名	担当教員	単位時間数
必修科目（講義）	保育原理	山口智之	30時間（2単位）

【授業の到達目標】

1．保育の理想と概念、子どもの最善の利益と保育、子ども家庭福祉と保育、保育の社会的役割と責任の観点から理解する。
2．保育に関する法令及び制度を理解する。
3．保育所保育指針における保育の基本について理解する。
4．保育の思想と歴史的変遷について理解する。
5．保育の現状と課題について理解する。

【授業概要】

1．保育の意義及び目的
2．保育に関する法令及び制度
3．保育所保育指針における保育の基本
4．保育の思想と歴史的変遷

授業内容

1	オリエンテーション
2	「保育」とは何か
3	保育と子ども理解
4	保育の内容
5	保育の方法
6	保育の計画と評価
7	健康・安全と保育
8	保育者の専門性と資質向上
9	保育の歴史に学ぶ
10	多様な子どもの理解と保育
11	学校や地域との連携のなかで行う保育
12	保育に関わる法律と制度
13	これからの保育の課題と展望
14	試験対策
15	試験

【成績評価方法】

成績評価：授業中の態度課題及び定期試験の結果で成績評価を行う。なお、出席が全体の3/2以下の場合は成績評価の対象外となる

授業の特徴・形式と教員紹介

講義形式の授業。
その日の講義内容だけでなく第一回目の講義からの繋がりを重視した講義スタイル。
講師は大学、専門学校における授業の実績、幼児体育指導、幼児の指導者を対象とした講習会の経験が豊富。

日本ウェルネス保育専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
保育専門課程	こども保育学科昼間部	2020年度	1年（後期）
講義区分	授業科目名	担当教員	単位時間数
必修科目（演習）	子どもと言語表現	木戸直美	30時間（1単位）

【授業の到達目標】

・乳幼児の心身の発達の特性、保育所保育指針における保育内容「言葉」「表現」のねらい・内容について
　構造的に理解する。
・言語表現活動における知識や技法を理解し、保育実践力を養う。
・保育者としての感性や表現力を身に付けている。

【授業概要】

日常の生活における子どもの言語表現をどの様に理解し、受け止めるのか、より豊かな言語表現を育んでいくための援助や指導について学習する。さらに、保育者としての感性や表現力の向上も目指す。

授業内容

1	ガイダンス
2	言葉とは何か
3	領域「言葉」「表現」のねらいと内容
4	言語表現の基礎知識（紙芝居）
5	言語表現の基礎知識（絵本）
6	紙芝居・絵本の表現技術
7	保育者としての言語表現①
8	保育者としての言語表現②
9	言語表現活動の計画①（グループ活動の立案）
10	言語表現活動の計画②（グループ活動の立案）
11	言語表現活動の実践（グループ活動の実践）
12	言語表現活動の振り返り
13	諸外国における言語表現①
14	総括
15	試験

【成績評価方法】

成績評価：授業中の課題・授業参画・試験の結果で総合的に成績評価を行う。なお、出席が全体の3/2以下の場合は成績評価の対象外となる。

授業の特徴・形式と教員紹介

映像・絵本等を活用し、アクティブラーニングを中心とした授業。講師は子育て支援事業の実践として、
幼稚園、保育園等で母親学級、健康教室、地域の子ども保育相談等も行い、大学、専門学校における授業経験

日本ウェルネス保育専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
保育専門課程	こども保育学科昼間部	2020年度	1年（後期）
講義区分	授業科目名	担当教員	単位時間数
必修科目（講義）	子ども理解	平野節子	30時間（２単位）

【授業の到達目標】

○子どもの特性と心身の発達について理解する。
○子ども同士や保育者と子どもとの人間関係が成長に大きく影響することを踏まえた保育士の援助の仕方を考えることができる。

【授業概要】

人間の発達の過程における子どもの発達段階を理解し、現代の子どもの家庭環境・地域環境に沿った保育士の専門性を生かした支援とはどのようなものなのかを学ぶ。

授業内容

1	発達と保育のつながり
2	発達の基本的考え方
3	初期発達の過程と段階
4	保育と発達の過程と段階
5	胎児期・乳児期
6	乳幼児発達と人間関係
7	幼児期の特徴
8	保育における集団と個の関係
9	環境を通して行う保育
10	遊びと保育の関係
11	幼児教育とメディア
12	児童期の特徴
13	青年期・成人期・老年期
14	発達への援助と発達障害
15	定期試験

【成績評価方法】

成績評価：授業中の課題（30%）及び定期試験（60%）授業参加態度（10%）の結果で成績評価を行う。　　なお、出席が全体の3/2以下の場合は成績評価の対象外となる

授業の特徴・形式と教員紹介

人間の成長過程の中で、乳幼児期・児童期における人間関係の重要性とそれに関わる保育士の責任を意識した授業を展開する。0歳児からの子育て支援と保育カウンセリング、学校カウンセリングを長年続けてきた経験と関連させたディスカッションやアクティブ・ラーニングを取り入れる。

日本ウェルネス保育専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
保育専門課程	こども保育学科昼間部	2020年度	1年（後期）
講義区分	授業科目名	担当教員	単位時間数
必修科目（講義）	教育方法論	平野節子	30時間（２単位）

【授業の到達目標】

○保育士の役割は擁護することと教育することの両輪であることを理解する。
○様々な発達過程にある子どもたちに沿った保育方法を考え、資質能力を伸長するにあたってどのような支援が必要なのか考えることができる。

【授業概要】

保育の基本と保育内容・保育方法を先人の業績から学び、現代社会に即した支援、保育のあり方について考える。

授業内容

1	保育の基本と保育内容・保育方法
2	西洋における教育方法の歴史
3	日本における教育方法の歴史（戦前）
4	日本における教育方法の歴史（戦後）
5	「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」他における教育・保育方法
6	子どもの発達と特性
7	発達障害のある子どもへの保育のあり方
8	保幼小連携を踏まえた保育のあり方
9	幼児期に育みたい資質・能力
10	保育の基本と人間関係
11	保育の中の人間関係
12	保育における領域「人間関係」
13	子育て支援と保育カウンセリング
14	保育者の専門性とキャリア発達
15	定期試験

【成績評価方法】

成績評価：授業中の課題（30%）及び定期試験（70%）授業参加態度（10%）の結果で成績評価を行う。　　なお、出席が全体の3/2以下の場合は成績評価の対象外となる

授業の特徴・形式と教員紹介

　長年の子育て支援と保育カウンセリング活動と小学校教員、学校カウンセラーの活動から見えてきた乳幼児期の保育方法、幼保連携のための教育方法等について実態を踏まえたディスカッション、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を行う。

日本ウェルネス保育専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
保育専門課程	こども保育科昼間部	2020年度	1年（後期）
講義区分	授業科目名	担当教員	単位時間数
選択必修科目（講義）	子どもと文学	高畠潤子	30時間（2単位）

【授業の到達目標】

年齢別に楽しめる選書方法と読み聞かせ
絵本、手袋シアターを創作する中でこどもが楽しめる内容や発想する力を身につける

【授業概要】

こどもと文学

授業内容

1	なぜ読み聞かせをするのか
2	年齢別絵本の選書方法
3	手遊びパペットを作ろう！
4	お話会の構成を発表
5	手袋シアターづくり１
6	手袋シアターづくり２
7	手袋シアターづくり３
8	手袋シアターの発表会
9	絵本をつくろう１
10	絵本をつくろう２
11	絵本をつくろう３
12	絵本をつくろう４
13	絵本をつくろう５
14	絵本をつくろう６
15	手遊び、創作絵本、発表

【成績評価方法】

成績評価：授業中の課題及び定期試験の結果で成績評価を行う。なお、出席が全体の3/2以下の場合は成績評価の対象外となる

授業の特徴・形式と教員紹介

講義形式の授業
講義内容にそって制作や実演を交えて授業が展開される
講師は現役の絵本作家。

日本ウェルネス保育専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
保育専門課程	保育科：昼間部	2020年度	1年後期
講義区分	授業科目名	担当教員	単位時間数
必修科目（演習）	保育内容演習（人間関係）	大西　祐輔	30時間（1単位）

【授業の到達目標】

1．総合的 に保育を展開していくための知識・技術・判断力を習得する。
2．子どもの発達を理解する。
3．保育に当たって保育士が留意、配慮すべき事項 を理解する。
4．保育の過程（計画・実践・記録・省察・評価・改善）の実際について理解する。

【授業概要】

1．総合的 に保育を展開していくための知識・技術・判断力
2．子どもの発達
3．保育に当たって保育士が留意、配慮すべき事項
4．保育の過程（計画・実践・記録・省察・評価・改善）の実際について

授業内容

1	オリエンテーション
2	幼児教育の基本
3	乳幼児期の発達と領域「人間関係」①
4	乳幼児期の発達と領域「人間関係」②
5	子どもと保育者の関わり
6	遊びのなかの人との関わり
7	生活を通して育つ人との関わり
8	個と集団の育ち①
9	個と集団の育ち②
10	人との関わりを見る視点①
11	人との関わりを見る視点②
12	現代の保育の課題と領域「人間関係」①
13	現代の保育の課題と領域「人間関係」②
14	試験対策
15	試験

【成績評価方法】

成績評価：授業中の態度課題及び定期試験の結果で成績評価を行う。なお、出席が全体の3/2以下の場合は成績評価の対象外となる

授業の特徴・形式と教員紹介

テキストに添って学びに基づき、実際の保育の実例紹介などに基づいたワークを行うことにより理解を深める演習形式の授業。講師は現役の保育士、長年の現場経験、実習生指導の経験に基づいた教育実践を行う。

日本ウェルネス保育専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
保育専門課程	こども保育学科昼間部	2020年度	1年（後期）
講義区分	授業科目名	担当教員	単位時間数
選択必修科目（演習）	現場実践研究Ⅰ	山口智之	30時間（1単位）

【授業の到達目標】

保育現場で求められる様々な指導項目のなかから、運動や遊びに着目して自身の知識や技術の向上と、指導ノウハウを身につける

【授業概要】

保育現場で求められる様々な指導項目のなかから、運動や遊びに着目して自身の知識や技術の向上と、指導ノウハウを身につける

授業内容

1	オリエンテーション
2	既存の手遊びの実践と指導方法①
3	既存の手遊びの実践と指導方法②
4	既存の手遊びの実践と指導方法③
5	手遊びのアレンジと指導方法①
6	手遊びのアレンジと指導方法②
7	手遊びのアレンジと指導方法③
8	前半のまとめ
9	既存の運動遊びの実践と指導方法①
10	既存の運動遊びの実践と指導方法②
11	既存の運動遊びの実践と指導方法③
12	運動遊びのアレンジと指導方法①
13	運動遊びのアレンジと指導方法②
14	運動遊びのアレンジと指導方法③
15	定期試験

【成績評価方法】

成績評価：授業中の課題（30%）及び定期試験（70%）授業参加態度（10%）の結果で成績評価を行う。　　なお、出席が全体の3/2以下の場合は成績評価の対象外となる

授業の特徴・形式と教員紹介

演習形式の授業。
その日の講義内容だけでなく第一回目の講義からの繋がりを重視した講義スタイル。
講師は大学、専門学校における授業の実績、幼児体育指導、幼児の指導者を対象とした講習会の経験が豊富。

日本ウェルネス保育専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
保育専門課程	こども保育学科昼間部	2020年度	1年（後期）
講義区分	授業科目名	担当教員	単位時間数
必修科目（演習）	音楽Ⅲ	竹山千尋	30時間（１単位）

【授業の到達目標】

生活の歌、季節の歌など、保育現場で定番の歌を弾き歌いできるようになる。
ハ長調・ト長調・ヘ長調の主要三和音を使ったコード伴奏を習得する。
各自が余裕をもって弾ける伴奏方法にアレンジできるようになる。

【授業概要】

課題曲を集団でレッスンした後、各々のキーボード・ピアノ室での個人練習、個人レッスンを行う。
各自のレベルに合わせて弾ける曲のレパートリーを広げていく。
授業4回毎に1回、プチテストを実施する。

授業内容

1	音楽Ⅱで弾いた曲の復習、生活の歌合同レッスン（左手）
2	生活の歌合同レッスン（右手）、アンサンブル、個人レッスン
3	個人レッスン
4	個人レッスン、プチテスト
5	生活の歌合同レッスン、個人レッスン
6	個人レッスン、アンサンブル
7	生活の歌合同レッスン（弾き歌い）、個人レッスン
8	個人レッスン、弾き歌いプチテスト
9	季節の歌合同レッスン、個人レッスン
10	個人レッスン、弾きうたい
11	試験曲候補合同レッスン、個人レッスン
12	プチテスト、試験曲決定
13	個人レッスン
14	個人レッスン、発表（試験リハーサル）
15	試験

【成績評価方法】

成績評価：授業中の課題及び定期試験の結果で成績評価を行う。なお、出席が全体の3/2以下の場合は成績評価の対象外となる

授業の特徴・形式と教員紹介

週に1度の授業時間に受け身の姿勢で出席するだけでは、ピアノを弾けるようにはなりません。できれば毎日、自宅や学校のピアノを使って10分でも自主的に課題曲の練習を重ねてください。進度別個人レッスンですので、練習すれば必ず上達します。教員はピアノ演奏とピアノ教育の専門家です。

日本ウェルネス保育専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
保育専門課程	こども保育学科昼間部	2020年度	1年（後期）
講義区分	授業科目名	担当教員	単位時間数
必修科目（演習）	乳児保育Ⅱ	高橋良子	30時間（１単位）

【授業の到達目標】

乳児保育における計画の作成について、具体的に理解する。
※「乳児保育」とは、３歳未満児を念頭においた保育を示す。

【授業概要】

１．乳児保育の基本
２．乳児保育における子どもの発育・発達を踏まえた生活と遊びの実際
３．乳児保育における配慮の実際
４．乳児保育における計画の実際

授業内容

1	乳児保育の基本
2	子どもの生活の流れ（0歳児クラス）
3	子どもの保育環境（0歳児クラス）
4	子どもの援助の実際（0歳児クラス）
5	子どもの生活の流れ（1歳児クラス）
6	子どもの保育環境（1歳児クラス）
7	子どもの援助の実際（1歳児クラス）
8	子どもの生活の流れ（2歳児クラス）
9	子どもの保育環境（2歳児クラス）
10	子どもの援助の実際（2歳児クラス）
11	子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮
12	集団での生活における配慮
13	環境の変化や移行に対する配慮
14	長期的な指導計画と短期的な指導計画
15	個別的な指導計画と集団の指導計画

【成績評価方法】

成績評価：授業中の課題及び定期試験の結果で成績評価を行う。なお、出席が全体の3/2以下の場合は成績評価の対象外となる

授業の特徴・形式と教員紹介

演習形式で乳児保育を学ぶ。教科書の内容に加え、実例と実技を交えながら理解を深める
講師は看護師として、病院・保育園で勤務経験あり、乳児保育の現場、専門学校における授業経験が豊富。

日本ウェルネス保育専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
保育専門課程	こども保育学科昼間部	2020年度	1年（後期）
講義区分	授業科目名	担当教員	単位時間数
必修科目（講義）	子どもの保健	高橋良子	30時間（2単位）

１・子どもの身体構造や生理機能の特徴を理解する
２・子どもの心身の健康に関する基礎知識を学ぶ
３・異常の兆を早期に発見し対応できることを目指す
４・保育者として、地域環境を把握し子育て支援活動の中心となるため資質を高める

【授業概要】

母子保健、乳幼児保健を通して乳幼児期の子どもの健康増進のために保育者が的確な支援を行えるよう学び、保護者、地域社会との連携により子育て環境が充実していくことを学び、その中心が保育者であることを学び自らの自覚を高めていく

授業内容

1	子どもの保健」を学ぶ意義と目的（胎児の成長及び赤ちゃんの誕生を通して）
2	子どもの発育・発達　（乳幼児・学童期の身体発育・評価）
3	子どもの発育・発達（思春期・青年期の身体発育・評価）
4	子どもの生理機能の発達（呼吸機能・循環機能・免疫機能）
5	子どもの生理機能の発達（消化機能・尿排泄機能・水分代謝・体温調節機能）
6	子どもの生理機能の発達（内分泌機能・睡眠リズム・感覚機能）
7	神経機能・精神機能・情緒・行動発達
8	小児の主な病気（小児機能の病気の特徴・保育現場でよくある病気・感染症）
9	小児の主な病気（アレルギー・先天異常・消火器・呼吸器・循環器）
10	小児の主な病気（血液・悪性腫瘍・神経疾患・皮膚・眼・耳の疾患・整形外科・その他）
11	子どもの精神保健（生活環境・子どもの心の健康と課題）
12	環境と衛生管理・安全管理（保育環境の整備と保健・衛生管理）
13	環境と衛生管理・安全管理（事故防止と安全対策）
14	健康及びの安全実施体制（職員間・家庭・専門機関・地域との連携）
15	定期試験

【成績評価方法】

成績評価：授業中の課題及び定期試験の結果で成績評価を行う。なお、出席が全体の3/2以下の場合は成績評価の対象外となる

授業の特徴・形式と教員紹介

講義形式でこどもの保健を学ぶ。教科書の内容に加え、実例を交えながら理解を深める
講師は看護師として、病院・保育園で勤務経験あり、乳児保育の現場、専門学校における授業経験が豊富。

日本ウェルネス保育専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
保育専門課程	こども保育学科昼間部	2020年度	1年（後期）
講義区分	授業科目名	担当教員	単位時間数
選択必修科目	現場実践研究Ⅱ	池田一穂	30時間（１単位）

【授業の到達目標】

公益財団法人　日本幼少年体育協会　幼児体育指導者検定２級の取得

【授業概要】

現場で活用できる幼児体育の理論と実技を身につける

授業内容

1	幼児体育理論①
2	幼児体育理論②
3	幼児体育理論③
4	ゲーム遊び①
5	リズム体操
6	マット運動（手本）
7	マット運動（補助）
8	マット運動（指導方法）
9	とび箱（手本）
10	とび箱（補助）
11	とび箱（指導方法）
12	なわとび
13	ボール
14	基本運動
15	試験

【成績評価方法】

成績評価：授業中の課題及び定期試験の結果で成績評価を行う。なお、出席が全体の3/2以下の場合は成績評価の対象外となる

授業の特徴・形式と教員紹介

現場での求められる幼児体育をまとめ前半では理論を学びそれを実技に使えるようにする。実際に園のなかで、体育活動の指導が出来る人材になれるようにする
講師は、指導者育成と幼児指導２つの現場経験を有している。明日からつかえる授業内容が特徴。